

助成事業実施報告書

団体名 NPO法人 タマリバティアカデミー

代表者・役職名 氏名 朝倉泰行 理事長

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

第2回 多摩市少年少女ティーボール大会

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

多摩市議会議員を20年終えた理事長が多摩市で公立小学校長11年を終えた副理事長に呼びかけ「不登校の児童をもう泣かせない」という気持ちで発足し、大学教授・弁護士一般の賛同者が加わり、本会を設立。その後「ひきこもり」相談・訪問メールによる相談等や障がい者等のスポーツ大会開催も始める。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

「不登校の児童生徒」「ひきこもり者」「障がいのある青少年のスポーツ大会が、多摩市では行っていなかった。そこで、ティーボール大会を多摩市の教育委員会・社会福祉協議会の後援を得て開催した。大妻女子大学(会場施設提供)、八王子実践高校硬式野球部(大会運営補助)の協力を得た。今年度は、真如苑の援助も頂いた。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

「不登校の児童生徒」「ひきこもり者」「障がいのある青少年が大空の下で、思い切りスポーツを楽しめるよう「ティーボール」(ピッチャーのいない野球の形式のスポーツで比較的小さな子供でも容易にできる球技)を行う。身体の不自由さに応じたルールもあり、不登校の児童生徒も、大学の構内ということで、プレッシャーを比較的感じない場所を設定した。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

今回は、第2回の大会であった。総勢50人程度であった。今回は、障がいのある子供たちの引率者にも加わってもらい「アットホーム」的な雰囲気を実施することができた。当会では、この事業を最終的には、市主催の事業にし、恒久的な多摩市の事業にしておくべきと、後援してもらった市教委や社会福祉協議会を始め市長・都議、福祉課にも訴え続けている。障がい者団体の副会長(視聴覚障がい団体)にも賛同を頂き、会合(障がい者団体)でポスターや参加のチラシを配布説明をしてもらった。徐々に市内に広まり定着してきている。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

大会に参加したが障がい者の児童生徒は多いが、「その子達を引率してくれる方がいなく参加できなかった」という声が多かった。児童の送迎車の確保や送迎バス等の手配ができれば、参加者が、大幅に増えると考えられる。また、不登校の児童生徒が、自分ひとりで参加するということにはなかった。ひきこもり者についても年長者は大会運営の手伝い等も考えているが、理想はまだ果たせないでいる。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし



第2回ティーボール大会 2017、11、03

